人間総合科学学術院博士前期課程体育学学位プログラム

授業科目名	ハンドボールコーチング論演習Ⅰ
科目番号	01EH330
単位数	3単位
標準履修年次	1年次
時間割	春AB 木2, 秋AB 木2, 秋C 木3-4
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子
授業概要	国内外における文献の精読を通して，ハンドボールのコーチングに関する基礎理論および応用理論について学習する。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールコーチング論領域における基礎的および応用的な知識，国内外で発信されている最新理論の学修を通して，倫理観，専門知識および国際性を身につける。 1) ハンドボールコーチング論領域における倫理観を確立すること。 2) ハンドボールコーチング論に関する幅広い知識を理解し，説明できるようになること。 3) 関連分野における国内外の文献を収集し，精読できるようになること。 (コンピテンス:倫理観，専門的知識，国際性)
授業計画	第 1 回 ハンドボールコーチング論領域における教育および研究に関する倫理(担当:會田 宏) 第 2 回 ハンドボール競技の歴史と展望(担当:會田 宏) 第 3 回 ハンドボールにおける競技力の構造(担当:會田 宏) 第 4 回 ゲームの局面構造(担当:會田 宏) 第 5 回 (1) セットアタックにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 6 回 (2) セットディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 7 回 (3) 速攻における技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 8 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術と戦術の構造(担当:會田 宏) 第 9 回 ハンドボールにおける技術と戦術の発達(担当:會田 宏) 第 10 回 (1) 新たな技術・戦術が発生するメカニズム(担当:藤本 元) 第 11 回 (2) 技術と個人戦術の発達(担当:藤本 元) 第 12 回 (3) グループ戦術の発達(担当:藤本 元) 第 13 回 (4) チーム戦術の発達(担当:藤本 元) 第 14 回 (5) ルールの変更と技術・戦術の発達との関係(担当:藤本 元) 第 15 回 チームマネージメントの実際(担当:藤本 元) 第 16 回 (1) 組織づくりと環境づくり(担当:藤本 元) 第 17 回 (2) トレーニングの運営(担当:藤本 元) 第 18 回 (3) ゲームマネジメント(担当:藤本 元) 第 19 回 ゲームプランとトレーニングプランの作成(担当:藤本 元) 第 20 回 (1) 標準的なゲームプランと中・長期的トレーニングプランの作成(担当:山田 永子) 第 21 回 (2) 対戦相手に応じた個別のゲームプランと短期的トレーニングプランの作成(担当:山田 永子) 第 22 回 ゲームプラン実現のためのトレーニング内容と方法(担当:山田 永子) 第 23 回 (1) セットアタックにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 24 回 (2) セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 25 回 (3) 速攻における技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 26 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術力と戦術力の養成(担当:山田 永子) 第 27 回 (5) 一般的・専門的な体力とメンタリティーの養成(担当:山田 永子) 第 28 回 ゲーム中における指揮(担当:山田 永子) 第 29 回 ゲームパフォーマンスの評価とゲーム・トレーニングプランの修正(担当:山田 永子) 第 30 回 競技レベル，年齢および性別に応じたコーチングと一貫指導(担当:會田 宏)
履修条件	ハンドボールの競技経験を有すること
成績評価方法	評価の割合は，基礎理論に関するレポート50%，応用理論に関するレポート50%とし，総合的に判断して，A+～ C，またはDの評定を行う。それぞれのレポートは，構成力，論理力，要約力，説明力などの観点から評価する。
教材・参考文献・配布資料等	『球技のコーチング学』日本コーチング学会(編)，大修館書店，2019 『コーチング学への招待』日本コーチング学会(編)，大修館書店，2017 『Playing handball: A comprehensive study of the game』Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016 『ボールゲーム指導事典』シュテーラーほか(唐木國彦 監訳)，大修館書店，1993
キーワード	技術，戦術，体力，心的・知的能力，トレーニング

人間総合科学学術院博士前期課程体育学学位プログラム

授業科目名	ハンドボールコーチング論演習Ⅱ
科目番号	01EH378
単位数	3単位
標準履修年次	2年次
時間割	通年 随時
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子
授業概要	ハンドボールのコーチングに関する研究方法論について学習し, 修士論文の作成に必要な知識と技能を養成する。各自の設定した研究テーマに関する先行研究の要約発表, 研究成果の中間発表, グループ討論を行う。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールコーチング論領域における研究対象の範囲, 研究方法論, 研究成果の発信方法に関する学修を通して, 倫理観, 研究力, コミュニケーション能力を身につけ, ハンドボールにおけるコーチングの現場で起っている現象を科学的に分析し, 論文という形式で表現することができる。 1) ハンドボールコーチング論領域における倫理観を確立すること。 2) ハンドボールコーチング論領域における研究方法を理解し, 活用できるようになること。 3) 研究成果を領域外の研究者が理解できるようにプレゼンテーションできるようになること。 (コンピテンス:倫理観, 研究力, コミュニケーション能力)
授業計画	第 1 回 ハンドボールコーチング論領域における研究に関する倫理(担当:會田 宏) 第 2 回 研究において明らかにするべき知の概念(担当:會田 宏) 第 3 回 国内外の先行研究において明らかにしている知(担当:會田 宏) 第 4 回 研究テーマの設定(担当:藤本 元) 第 5 回 研究デザインの作成と検討(担当:藤本 元) 第 6 回 データの収集と倫理的問題への対応(担当:藤本 元) 第 7 回 データの分析と統計的手法(担当:山田 永子) 第 8 回 データの解釈(担当:山田 永子) 第 9 回 公共性のある論文作成(担当:山田 永子) 第 10 回 口頭による研究発表(担当:會田 宏)
履修条件	ハンドボールコーチング論研究領域において修士論文を作成する学生
成績評価方法	評価の割合は, 中間発表の成果80%, 授業参加への積極性などの平常点20%とし, 総合的に判断して, A+～ C, またはDの評定を行う。中間発表の成果は, 構成力, 論理力, 要約力, 説明力などの観点から評価する。授業参加への積極性は, グループ討論時の質問力, 回答力などの観点から評価する。
教材・参考文献等	『球技のコーチング学』日本コーチング学会(編), 大修館書店, 2019 『コーチング学への招待』日本コーチング学会(編), 大修館書店, 2017 『Playing handball: A comprehensive study of the game』Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016 『ボールゲーム指導事典』シュテーラーほか(唐木國彦 監訳), 大修館書店, 1993
キーワード	質的研究, 量的研究, インタビュー調査, 記述的ゲームパフォーマンス分析

人間総合科学学術院博士前期課程体育学学位プログラム

授業科目名	ハンドボールコーチング総合演習
科目番号	01EH649
単位数	1単位
標準履修年次	1年次
時間割	春AB 金4
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子
授業概要	ハンドボールのコーチング実践に必要な理論の学習とコーチング実践活動を通して，さまざまな問題に対処できる専門的な指導力を身につける。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールコーチングに関する理論を選手およびチームに適用させる指導実践活動を通して，コーチに求められる哲学と倫理を理解するとともに，選手と適切にコミュニケーションを図る能力やチームの機能を高めるチームワーク力を身につけ，コーチング実践力を高める。また，自らのコーチング活動を省察することを通して，知の活用力とマネジメント能力を身につける。 1) ハンドボールのコーチに求められる哲学と倫理観を確立すること。 2) ハンドボールにおいて選手やチームに応じた指導計画を立案し，合理的なコーチングができるようになること。 3) 自らのコーチング活動を省察し，評価できるようになること。 (コンピテンス:倫理観，コミュニケーション能力，チームワーク力，実践力，知の活用力，マネジメント能力)
授業計画	第 1 回 ハンドボールコーチングにおける哲学と倫理(担当:會田 宏) 第 2 回 個人戦術，グループ戦術，チーム戦術のコーチング(担当:會田 宏) 第 3 回 発達段階に応じたコーチング(担当:會田 宏) 第 4 回 指導計画の立案(担当:會田 宏) 第 5 回 個人戦術を養成するコーチング実践活動(担当:山田 永子) 第 6 回 グループ戦術を養成するコーチング実践活動(担当:山田 永子) 第 7 回 チーム戦術を養成するコーチング実践活動(担当:山田 永子) 第 8 回 初級レベルの選手に対するコーチング実践活動(担当:藤本 元) 第 9 回 中級レベルの選手に対するコーチング実践活動(担当:藤本 元) 第 10 回 コーチング活動の評価(担当:藤本 元)
履修条件	ハンドボールの競技経験を有すること
成績評価方法	評価の割合は，指導計画書30%，スーパーバイザーによる活動評価30%，活動レポート40%とし，総合的に判断して，A+ ～ C，またはDの評定を行う。指導計画書は，企画力，実現可能性などの観点から評価する。スーパーバイザーによる活動評価は，実践力，適応力などの観点から評価する。活動レポートは，内省の充実度，論理力，説明力などの観点から評価する。
教材・参考文献等	『目からウロコのポジション別上達術〈コートプレーヤー編〉』スポーツイベント・ハンドボール編集部(編)，グローバル教育出版，2016 『目からウロコのDF戦術』スポーツイベント・ハンドボール編集部(編)，グローバル教育出版，2016 『目からウロコのシュート術』スポーツイベント・ハンドボール編集部(編)，グローバル教育出版，2014 『小学校におけるハンドボールの授業〈ゲームでまなぶ楽しいハンドボール〉』山田 永子ほか，株式会社イセブ，2014
キーワード	指導計画，指導実践，スーパーバイザー，省察